

記憶と記録に残る タイムマシンの如くたれ

田中 博文 議員



全国的に広がりを見せている「読書通帳」^{注10}には、手のひらの端末からは伝わらない「本のおい」がする。昔「戦国自衛隊」、今「信長協奏曲」、偉人達との疑似体験、これぞ読書の醍醐味である。県立・大村市立一体型図書館（仮称）については、2018年度中の開館を迎えるが、訪れる全ての人々の記憶と記録に残せる取り組みとして、まず現在の図書館に、簡易型の読書手帳を導入してみてはどうか。

A 読書通帳については、2年ほど前から注目しており、新図書館に設置することを協議している。また、簡易型の読書手帳の導入については、ホームページ上に台紙のひな形を掲載したり、図書館のカウンターに印刷したものを設置し、読書記録を自作できるようにするなど、現在の図書館を多くの市民の皆様が、積極的に活用していただける方法の一つとして、検討したい。

2学期制を3学期制に移行することについて

古閑森 秀幸 議員



前松本市長、前黒田教育長のころから要望しているが、2学期制を3学期制へ移行する考えはあるのか尋ねる。

A 教育委員会としては、昨年3月に策定した第2期大村市教育振興基本計画において、さらなる改善に努めながら、引き続き2学期制を継続し、特色ある学校づくりにつなげていくこととしている。市としては、近年の不登校率の悪化や、保護者から2学期制の検証結果の説明に納得できないなどの声があることから、2学期制を3学期制に戻したいと考えているが、教育委員会の所管であるため、総合教育会議の議題に何回でも取り上げ、3学期制への移行ができないか、会議を重ねたい。



らんばちゃん

市立図書館の独自性を保てるように

村崎 浩史 議員



県立・大村市立一体型図書館（仮称）について、建設費用の負担割合や負担額の見通しと、明確な数字が示される時期はいつごろになるのか尋ねる。また、同図書館の館長を含めた人員体制や配置について、どのような協議が行われているのか尋ねる。大村市立図書館としての独自性をしっかり保つ必要がある。

A 建設費用については、面積や蔵書数等により案分する方法を県と鋭意折衝しており、国からの交付金を有利に活用するため、県の協力をいただきながら、設計を行っている。また、人員体制については、県立、市立の図書館の設置条例を定める上で、役割が違うため、館長はそれぞれ必要だと思われるが、管理運営上は、館長1人、副館長2人とすることも含め、県と協議している。

都市整備

新幹線新大村駅・周辺地域まちづくり計画

水上 享 議員



新幹線を活かしたまちづくり計画が予定されており進められているが、博多駅までのF&T^{注11}

（フリーゲージトレイン）の導入が困難となり、リレー方式ではさらに時短効果を期待できない中で、企業や大学誘致を進めなければならぬ。民間施設の誘致促進を図るための助成制度を新設し、立地に向けた優遇措置を講じなければ、他の沿線自治体との競争に後れをとるのではないか。

A 新幹線新大村駅（仮称）の駅前には、ビジネス・オフィス系の企業誘致に取り組みたいと考えており、誘致に際しての優遇制度の整備については、先進自治体の例も参考に研究したい。



注10…図書館における貸出履歴を記録するための通帳
注11…レール幅の広い新幹線と狭い在来線を直通できる電車

